

後援会だより

札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌 Vol.48

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2017年3月31日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai

今年こそファイナル進出に向けて 燃える札大YOSAKOIチーム

Lafette (ラ・フェット)

今年度の中心メンバーに意気込みを聞く!!

今や初夏の北海道を彩る最大のイベントに成長した「YOSAKOIソーラン祭り」。札幌大学では早くからチームを結成、任意団体として参加してきました。その年の3年生がメインとなってチームを牽引し、毎年趣向を凝らした振り付けや衣装で観客を魅了しています。札大では昨年の「YOSAKOIソーラン祭り」終了後に中心メンバーが新3年生にバトンタッチ。今年にかける抱負を聞きました。



「毎年テーマを決めて本体会に臨みますが、今年のテーマは、まだ発表はできませんが、一つ言えるのはチームワークの良さを見てもらいたいですね。これは札大チームが結成以来の基本コンセプトとして守り抜いてきた伝統です。大学のチームなので、もちろん男女混合ですが、みんな本当に仲が良いんですよ。純粹な大学生のチームなので年齢が近いことが、その理由だと思います。」



「大変な役割ですが、良い社会勉強になります。円滑に大会に参加できるように準備を整え、メンバーが演舞に集中できるようにしたいと思います。」

「昨年度は、1年間、代表としてチームを引っ張ってきた齊藤彩乃さんは次年度4年生となり、中心メンバーを3年生の井上さんらにバトンタッチ。」

「昨年、賞状というテーマで出場し、一次審査員賞を受賞しましたので、今年はその結果を残してほしいですね」と、激励の言葉を掛けていました。本体会に向けてチームはすでに始動しており、着々と準備が進められています。全員で今年のテーマを決め、振り班を中心にパフォーマンスを決められ、美術班がそのコンセプトに沿った衣装づくりを行っています。この日インタ

札幌大よこいチームは、代表、副代表のもと、渉外統括、振り班、美術班に分かれ、それぞれ得意なジャンルでチーム運営に貢献しています。今年代表に就任したのは井上瞬さん。

チームワークの良さは、これからも守っていききたいですね

大会以外でもパフォーマンスを披露する人気チームに



2017年度代表(英語専攻2年) 井上 瞬さん



2017年度副代表(異文化コミュニケーション専攻2年) 遠藤 涼さん



2016年度代表(地域創生専攻3年) 齊藤 彩乃さん



2016年度副代表(英語専攻2年) 乗田 侑香さん

ビューした中心メンバー全員が「今年ファイナル進出を目指します」と口を揃え、決意を述べました。振り付けはアドバイザーの助言をもらいながら組み立てていきますが、テーマを決めるのも衣装デザインも全て部員によるもの。費用の負担も決して少なくありませんが、それでもほぼ毎日集まってハードな練習をこなし、夢に向けて前進しています。

「自分たちも楽しんでいきますので、大変だとか苦労しているとは思いません。私たちのパフォーマンスが多岐の人に喜んでもらえれば、それが次のステージへのエネルギーになりますからね。これからも札大YOSAKOIチームに注目してください」と、新代表の井上さんが語る傍らで、メンバー一同は目を輝かせていました。

CONTENTS

札大YOSAKOIチーム ラ・フェット後援会から	1面
札幌大学会社説明会 就活学生インタビュー 後援会による表彰 災害ボランティア活動	2面
就職内定者レポート 卒業生インタビュー	3面
平成28年度課外活動への補助一覧 キャンパスカレンダー 平成29年度保護者懇談会 後援会新役員ご挨拶 編集後記	4面

「地域の価値を創造する」これは地域の発展に貢献する人材を育てることを目標に表現した標語だそう。札幌大学後援会では大学と協力し保護者の皆様のご理解とご協力のもとに学生の活動状況、支援状況などを年2回「後援会だより」を発行し、保護者の皆様にお届けしております。今後とも宜しくお願ひ致します。

その間に毎年寮生が卒業、就職し、多くの学生が社会で活躍をしております。又札幌大学では1967年に「生気あふれる開拓者精神」を掲げて開学して以来「5万9千人」にのぼる卒業生を輩出しています。2013年より札幌大学では「地域共創学群」として新たなスタートを切りました。そして今年度は第一期生が卒業して地域社会に飛び立って行きます。



後援会から
役員としての12年
札幌大学後援会副会長 広報委員 北崎 義弘

キャリアサポートセンターを活用してください。

学生支援オフィス主幹 就職担当 小野 寛一さん

昨年度は90%を超える内定率で学生たちの就職活動が終わりでしたが、この3月に卒業を迎える「地域共創学群第1期生」には強い関心と期待が寄せられています。この第1期生たちも3年次から始まった就職講座で「業界研究のしかた」「自己分析のしかた」「グループディスカッション対策講座」などで準備を進め、個人面接の練習、履歴書の添削と次第に就活モードに入っていました。昨年の秋口から「今年も学生側の超売手市場」という就職情報会社の宣伝が災いし、学生たちの動きは非常に細く、早めに内定を得て就活を終えた学生もおりましたが、昨年同様に就活期間の長期化が見られました。それでも内定率は昨年同時期と比較し、毎月数ポイント高く推移してきましたが、12月頃からは内定の報告件数も減り、1月2月は未内定学生たちの動きが見えず、心配になったほどです。3月になっても求人はきています。学生が諦めない限り、私ども就職スタッフも諦めません。3月末ギリギリまで支援していきたいと思えます。

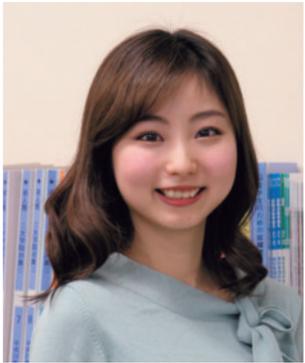
また、内定のないまま卒業してしまう学生を対象に、札幌市が行う「フレッシュスタート塾」が5月から始まります。3月16日に学内説明会を開催しましたが、1カ月の座学に続き、3～4カ月の職場実習を経て正社員として入社してもらうプログラムで、昨年も本学のOB・OGが正社員として入社しています。卒業後もキャリアサポートセンターは利用できますし、既卒者への求人票や様々な情報も届きますので、いつでも気軽に母校に相談に来てくれることを切に願っております。



就職活動いよいよスタート 札幌大学「会社説明会」開催

今年の就職戦線もいよいよ本格化し始めました。本年度も札幌大学では校内で会社説明会を開催いたしました。130社あまりの企業の参加があり、多くの学生が熱心に話に聞き入っていました。

●開催日／2017年3月1日～3日、9日～10日 計5日間
●場所／札幌大学2号館



地域共創学群 法学専攻 3年生
荒澤 優希さん

高校生の頃から公務員志望で、札幌大に入学してからもその夢は変わらなず、願いを叶えるために早くから活動を始めました。具体的には2年生の後半からLECという公務員講座に参加しており、3年生になった今も受講中です。公務員の中で最初は市役所勤務に興味を持っていましたが、札幌大に入って調べるうちに、今は裁判所や財務局など、専門系の公務員になりたいと思うようになり、今後は札幌大主催の会社説明会に出席し、できる限り多くの情報を収集する中から、民間企業も視野に入れた柔軟な対応をしていきたいです。結婚後も続けられる仕事が理想です。女性にとっては重要なポイントだと思います。

公務員として裁判所や財務局、また民間企業も視野に就活をしています



就活直撃インタビュー



希望と適性に合った職場を選び、後悔しない就職をしたいですね

インタビューで某信用金庫の職場体験に行きました。そこで人事担当の方や新入社員の方などの話をお聞きして、好印象だったことから、また親戚が銀行に勤務していることもあり、金融関係も良いなと思うようになりました。それまでは、今打ち込んでいるサッカーを社会人になっても続けたいという観点から金融機関や旅客運送業に興味がありました。体力には自信があるので、公務員も目標とする視野に入れていきます。全ての基本にあるのは、自分の希望に沿ったところ、自分の適性に合った職場に勤めたいという思いです。そのためには、人よりも早く就職活動を始めることが最大のポイントだと考えました。今後も後悔しない就職活動を展開したいですね。

希望と適性に合った職場を選び、後悔しない就職をしたいですね



地域共創学群 スポーツ文化専攻 3年生
森木 厚圭さん

野球部が南富良野町で災害ボランティアとして活動しました

平成28年台風10号による甚大な被害を受けた南富良野町において、9月8日(木)、野球部の部員が災害ボランティアとして活動しました。

このたびのボランティア活動は、大きな被害が出た同町幾寅地区出身の学生が野球部に在籍しているほか、野球部が同町と様々な縁があることから実現したものです。

今回の活動に参加したのは野球部員46人。朝6時に大学を出発し、現地では住居周辺の復旧作業や倉庫からの泥出し、かぼちゃなどの農作物の搬出作業など、様々な活動を精力的に行いました。この活動に対して後援会から課外活動補助金を交付しています。



石田 誠さん
(中国語・中国文化専攻4年生)

石田さんは、10月23日(日)に開催された全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会において、朗読・暗誦・弁論の3部門の内、弁論の部に出場し「どうしたら日中関係が良くなるか」のテーマで最優秀賞を受賞しました。この後、平成29年1月8日(日)に東京で開催された全国大会に出場しました。



弁論大会表彰式の様子

竹下 怜奈さん
(ロシア語専攻4年生)

竹下さんは、11月26日(土)に北海道赤レンガ庁舎にて開催された、「第48回全道ロシア語弁論大会」のAクラス(5分間スピーチ、質疑応答、詩の朗読)で優勝しました。幼い頃に習い始めたバレエを通じて触れ合ったロシアの人々の温かさについてロシア語でスピーチし、優勝を決めました。

後輩への模範となる4年生を表彰

毎年後援会は成績優秀者を選考し表彰しています。本年度は、第34回全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会で最優秀賞の成績を収めた石田誠さん(中国語・中国文化専攻)、また、第48回全道ロシア語弁論大会で優勝の成績を収めた竹下怜奈さん(ロシア語専攻)に対して、平成29年1月31日開催の役員会において表彰式が行われ、猪狩後援会会長から表彰状と褒賞金が手渡されました。

大学祭実行委員の経験を強みに

就職活動はいつから始めればよいのか？ 就職担当の方に聞いたり、参考書を見てみると早めの準備が大切で、インターンシップに積極的に参加し、企業研究を重点的にすべきである、そんな内容が多かったように感じます。確かにどれも大切なことなのですが、実際、就職活動を終えた私の印象は、少し違っていました。私は短い大学生活の中でどのような経験をして、どんなことを学び成長してきたのかということが最も重要なことだと思います。

私が大学生活で最も自身の成長を感じたのは、所属していた大学祭実行委員会での経験です。2年生の時には、企画局長としてステージ企画の立案、運営を行いました。学生はもちろんのこと、たくさんの方々の企業の方々や関係する機会があり、その中で自分の考えを説明する難しさ、また自分の熱意が伝わり企画したことが成功する喜びを学びました。確かに初対面の人と意見交換をしたり、何か新しい企画を始めようとするには相当なエネルギーが必要です。しかし、今振り返るとやり遂げた後には一回り成長した自分を感じることができました。この経験は私にとって大きな自信となり、就職活動にも役立ちました。面接では面接官からの質問に対して自分の思ったことを端的かつ具体的に答えることができ、自分の強みの一つとしてエントリーシートや履歴書にも書くことが出来ました。



経済学専攻 眞柄 亮太 さん

最終的に6社から内定を頂くことができた北洋銀行に入行することを決めました。理由としては、私が就職活動をするにあたって重要視していた生まれ育った北海道で地域の方々のために仕事がしたいということに最も適していると思ったからです。何から始めればよいか難しい就職活動ですが、自分の強みや興味があることをさらに伸ばし、日々の生活の中で多くの経験をしていくことが必ず就職活動への強みとなり、将来に繋がっていくと私は思います。

合格体験記

苦勞した点、反省すべき点、今後の抱負

地域共創学群法学専攻 平川純菜です。この度、北海道職員採用試験に合格することができましたので4月から道の職員として働かせていただきます。大学入学のころから公務員を目指していたので夢が叶い、うれしい気持ちです。借越ながら私なりに公務員に合格するにはどうしたらよいかを話させていただきます。

まず、公務員は長丁場であること、さらにはやらなければならない勉強の科目が多いことを覚悟する必要があります。就職活動は、民間企業と公務員のほぼ2択となります(詳しくは支援オフィスまたはキャリアサポートセンターへの問い合わせをお勧めします)。もし公務員が心配で民間企業も目指すようであれば企業の合同説明会や個別説明会に参加することに加え、公務員の勉強も同時並行でしなければなりません。これはなかなか気力も体力も持たないため、途中でどちらかの活動を止めてしまいがちで、気付けば自分の望んでいた就職先ではない確率が非常に高いと思います。民間もそうですが、中途半端に二足の草鞋を履くのではなく、できれば公務員一本で勝負するのがいいかと思えます。それほどの気持ちがあれば自分はこの道しかないのだと思え、合格するために努力すると思えます。上記にもあげましたが公務員は勉強する科目数が多いです。そのためここが重点的になるのか、自分の受ける出願先の出題傾向などをよく知る必要があります。私は大学と提携していたLECを受講し、それらを掴んでいきました。面接対策や書類添削などもサポートしてくれるので、独学ではなくLECなどを頼るのがベストだと思います。特に、出願先への提出書類に関しては自分でうまく書けません。何回もプロの方に見てもらうことでよりよい書類となります。この提出書類は私もかなり苦勞しました。続いて勉強時間に関しても、これはかなり個人差があります。私は長い時間、勉強するのが嫌だったので、今自分どの科目を勉強する必要があるのかなどを計画して質を高めていきました。自分の性格



法学専攻 平川 純菜 さん

をよく理解して、勉強の進捗を決めることが重要だと思えます。最後になりますが、ここまでサポートしてくださった家族、仲間、大学関係者の方々、本当に有難うございました。

航空会社への憧れを現実にするために 私の就職活動は3年生の9月頃始まり、その時は具体的に将来どういった職業に就きたいのかは、決まっていりませんでした。まず大学のキャリアサポートセンターに行き、センターの方と自己分析を行いました。これまでの自分の出来事、長所・短所などを振り返り見つめなおしました。それから9月にインターンシップや業界研究セミナー等に参加するうちに、自分がやりたいことが見えてきました。元々航空業界に興味があったこと、業界研究セミナーに参加しているうちに生まれた北海道のため人のために働きたいと感じ始め、業界を絞っていき、そこで(株)AIRDOという会社に憧れを持ちました。

1月頃から筆記試験の対策や学内で行われる集団面接、グループディスカッション対策講座などに参加しました。学内のグループディスカッションでは、実際に企業の人事の方に一人ひとりコメントをいただけるので良い経験になりました。また学外で行われる講座にも参加し、他大学の生徒とディスカッションする機会が増えました。

3月になるとエントリーが開始し、単独企業説明会や合同企業説明会が始まり、お話を聞き企業を知り、自分とマッチする会社の履歴書やエントリーシートの作成を始めました。一社一社の企業の特徴、なぜ自分が入りたいのか、入ってどう成長し何をしたいのか等を具体的に考え、時間をしっかり掛け丁寧に作成していき、6月からは、筆記試験や二次選考、最終選考と進んでいき、6月下旬に(株)AIRDOから内定をいただきました。

入社後は、まず会社に慣れ社員として活躍できるように努力します。また北海道と各地を結ぶ交通網の二つを担うこの会社で、道内・道外の方に喜ばれ信頼されながら、北海道の活性に繋がる仕事をしていきたいと思っています。



経済学専攻 赤坂 勇輝 さん

卒業生の声

社会の第一線で活躍される卒業生紹介。今回は国内のみならず、海外でも人気の北海道名菓「白い恋人」で有名な石屋製菓に勤務する、佐藤さんを訪ねました。

世界もマーケットに伸びる「白い恋人」、地域に貢献している「石屋」を条件に、今の会社を選びました

何でもやれそうな自由な雰囲気、札幌にはありません

地元秋田の工業系高校に通っていましたが、見知らぬ土地で何か違う分野にチャレンジしたいと思い、札幌に来ました。札幌を選んだ理由は、中学生の時の担任が札幌出身だということを知っていたので、とても尊敬する先生でした。自分もそこで学んでみようと思ったのが入学動機ですね。札幌の印象は田舎から出て来たということもあり、人の多さに驚きました。キャンパスの印象は、何でもやれそうな自由な雰囲気を感じました。例えば、在学時にオープンキャンパスのスタッフをさせてもらったのですが、私たちの意見を聞いて、それを尊重してくれました。自分たちの企画が通るので、やり甲斐がありましたね。ここから多くのことが学べるとワクワクしました。

成果を求められる人事部は、やり甲斐のある部署です

帰国後に就職活動をスタート。留学経験をセールスポイントに、海外もマーケットにしており、なおかつ北海道の発展に貢献できる企業という条件で探しました。そこで目に留まったのが石屋製菓でした。就職担当の方から面接直後にお電話をいただき、「是非ウチに来てほしい」と言われたことが決め手でした。その熱意と期待に感動して入社を決意しました。実際には石屋製菓という会社に販売営業での採用でした。海外への販売も活発で、自分の能力が生かせる職場だと喜んでいたので、2年目に石屋製菓の人事部人事課に異動となりました。現在主に担当しているのが非正規の採用で、新卒採用にもサポートとして携わっています。実は間もなく北広島市に当社の新工場が開設する予定で、従業員を補充しなければならず、募集活動や書類選考、面接、さらに入社手続きと、多忙な毎日をごさいます。また、研修カリキュラムの立案や運営も行っており、衛生管理やコンプライアンスの徹底など、大変重要な入社時の教育も担当しています。人事というのは、いつまでに何人採用し、どれだけの戦力を送り込めるかなど、意外に仕事ぶりが数字で示される部門なんです。それだけに、期待して採用した人が成長し、活躍し



石屋製菓株式会社 人事部人事課 佐藤裕太 さん (平成23年度卒業)

てくれるのは嬉しいことですね。今後は採用全般を担当してみたいと思っています。また、私は現在、小樽商科大学大学院のMBA(経営学修士)コースに通っており、将来はその能力を経営にフィードバックできればと考えています。会社に資格取得制度があるわけではないので、私の希望で学びたいと申し出ました。それを受け入れてくれる懐の大きさに感謝ですね。人事部はもともと社長との距離が近く、意思の疎通がしやすいんです。その中でMBAを学びたいという気持ちを伝えることもできましたし、希望を通していただいた時は嬉しかったですね。

大卒採用には自分なりの意見があるかどうかのポイント

人事部として、今後も多くの札幌出身者が当社にエントリーしてくることを望んでいます。大卒者は総合職として採用しますので、将来は経営の中枢を担ってほしいですね。採用試験に関して一つアドバイスするとしたら、自分なりの考えを持ってほしいということです。それが未熟な考え方や、見当違いの意見でも全然問題ありません。誰かの言葉やマニュアル通りの回答ではなく、その方の、人となり、がわかる主張を、私たちは聞きたいのです。後輩の皆さんには是非このポイントを念頭において、就職活動を進めてほしいですね。期待してお待ちしています。



平成28年度 課外活動への補助一覧

平成29年2月現在

交付団体名	大会名	補助対象期間	支出金額
弓道部	第64回全日本学生弓道選手権大会	8/8～8/13	216,000
	第47回全日本学生弓道選手的選手権大会		
剣道部	第64回全日本学生剣道選手権大会	7/1～7/3	18,000
	第64回全日本学生剣道優勝大会	10/7～10/10	105,000
	第35回全日本女子学生剣道優勝大会	11/12～11/14	63,000
硬式庭球部	全日本学生テニス選手権大会(男子84回/女子60回)	8/12～8/16	30,000
	平成28年度全日本学生室内テニス選手権大会	11/25～11/29	15,000
サッカー部	第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	8/5～8/7	225,000
女子サッカー部	第25回全日本大学女子サッカー選手権大会	12/22～12/25	204,000
	第71回国民体育大会サッカー競技(女子)	10/1～10/5	15,000
女子バスケットボール部	第68回全日本大学バスケットボール選手権大会	11/20～11/23	252,000
女子バレーボール部	第35回東日本バレーボール大学選手権大会	6/23～6/25	135,000
柔道部	平成28年度全日本学生柔道優勝大会	6/24～6/26	117,000
	平成28年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	9/9～9/11	9,000
	平成28年度全日本学生柔道体重別選手権大会	9/30～10/2	117,000
	第71回国民体育大会	10/6～10/10	15,000
	平成28年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会	10/28～10/30	135,000
準硬式野球部	第68回全日本大学準硬式野球選手権大会	8/19～8/21	252,000
	第34回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	11/17～11/21	120,000
スケート部	第17回大学アイスホッケー交流苫小牧大会	9/7～9/11	225,000
	第10回東日本学生フィギュアスケート選手権大会	10/14～10/16	27,000
卓球部	第83回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	10/27～10/30	12,000
男子バスケットボール部	第68回全日本大学バスケットボール選手権大会	11/21～11/25	372,000
男子バレーボール部	第35回東日本バレーボール大学選手権大会	6/22～6/25	228,000
	第69回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会	11/28～11/30	180,000
羽球部	第4回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会	8/14～8/16	36,000
	第67回全日本学生バドミントン選手権大会	10/14～10/16	81,000
ラグビー部	第67回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会	1/1～1/5	375,000
陸上競技部	第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	8/31～9/4	165,000
	第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会	10/27～10/30	108,000
野球部	平成28年台風10号による被災地支援ボランティア(南富良野町)	9/8	138,000
	小計		3,990,000

交付団体名	文化系サークル補助金	補助対象期間	支出金額
アマチュア無線部	アマチュア無線家との交流		50,000
写真部	写真展		50,000
映画研究会	映画上映大会		50,000
文芸部	部誌制作		50,000
ジャズ研究会	定期演奏会		50,000
アビーロード音楽研究部	ライブ		50,000
軽音楽部	大学祭ライブ		50,000
演劇研究会	演劇祭		50,000
劇団ダイナマイト	演劇祭		50,000
アニメーション部	アニメーション作品の制作		50,000
	小計		450,000
補助金支出合計			4,440,000

キャンパスカレンダー

2017.4～2018.3

- 4 1日(土) 入学式
1日(土) 春学期ガイダンス・オリエンテーション(～4/6)
7日(金) 春学期授業(～8/7)
- 5 6日(土) 開学記念日
13日(土) 第1回オープンキャンパス
- 6 23日(金) 大学祭(～6/26)
24日(土) 第2回オープンキャンパス(大学祭同時開催)
- 7 15日(土) 第3回オープンキャンパス
30日(日) 第4回オープンキャンパス①
- 8 1日(火) 春学期補講日
6日(日) 第4回オープンキャンパス②(2週連続開催)
8日(火) 夏期休業(～9/19)
- 9 1日(金) 春学期卒業発表
4日(月) 秋学期集中講義(～9/16)
20日(水) 秋学期ガイダンス・オリエンテーション(～9/21)
22日(金) 秋学期授業(～2/3)
23日(土) 春学期卒業証書・学位記授与式
- 10 6日(金) スペシャルデイズ(～10/8)
8日(日) 第5回オープンキャンパス(スペシャルデイズ同時開催)
21日(土) 課外活動・アクションプログラム特別推薦入学試験10月日程
- 11 18日(土) 推薦・特別入学試験(～11/19)
自己推薦特別入学試験A日程
課外活動推薦特別入学試験A日程(～11/19)
- 12 9日(土) 自己推薦特別入学試験B日程
課外活動推薦特別入学試験B日程
26日(火) 冬期休業(～1/8)
- 1 13日(土) 大学入試センター試験(～1/14)
30日(火) 秋学期補講日(～1/31)
- 2 5日(月) 一般入学試験(A日程)
- 3 1日(木) 秋学期卒業発表
6日(火) 一般入学試験(B日程)
9日(金) 自己推薦特別入学試験C日程
課外活動推薦特別入学試験C日程
21日(水) 秋学期卒業証書・学位記授与式
24日(土) 第6回オープンキャンパス
28日(水) 自己推薦特別入学試験D日程



平成29年度 札幌大学保護者懇談会

保護者懇談会は、学生の就職状況、修学状況、学生生活等についてご説明することにより、大学へのご理解を深めていただくことを目的に、札幌会場をはじめ、道内7会場及び青森において開催いたします。

改めて開催案内をお送りいたしますので、大学における様々な施策・活動へのご理解をいただくため、是非ともご出席くださいますようお願いいたします。



昨年の保護者懇談会の様子

開催地	実施会場	開催月日
札幌	札幌大学	6/3(土)
北見	ホテルロイヤル北見	9/2(土)
旭川	アートホテル旭川	9/3(日)
釧路	ホテルクラウンヒルズ釧路	9/9(土)
帯広	ホテルグランテラス帯広	9/10(日)
札幌	札幌大学	9/16(土)
青森	ホテルJALシティ青森	9/23(土)
函館	ホテル法華クラブ函館	9/24(日)
苫小牧	グランドホテルニュー王子	9/30(土)

後援会新役員のご挨拶

平成28年度、札幌大学後援会の役員に新しく広報担当の運営委員として、谷口紀代美さんが就任されました。



皆様、こんにちは。私はこの度、後援会の広報委員を仰せつかりました谷口と申します。息子は昨年卒業いたしました。病気で休学も含め、7年間本大学にはお世話になりました。さらに公務員を目指して勉強しておりました。お陰様で4月より就職が内定しております。私は今までお世話になった分、少しでも皆様のお役に立てればと考えまして、微力ではありますが頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

谷口 紀代美

編集後記

今冬、札幌では12月に50年ぶりとなる積雪90センチ以上を記録しましたが、年が明けてからの札幌は記録的に雪が少なく経過していました。3月を迎え、北海道の長い冬も終盤ですが、大学キャンパス内は雪の塊があちこちに見受けられます。キャンパスの雪景色は、暖かい春が待ち遠しくもあり、一方で雪も残惜しくもあり、まさに、進学や卒業の心境にさせてくれます。

その本学生のキャンパス風景はどうでしょう。一人でも複数でも、歩きながら、また食事を摂りながら携帯電話に目を落としている光景をよく目にします。ひとつだけのシーンですが、若さのもつ澆刺たる生気が陰りを帯びているようにも映ります。

しかし、昨今若者にとって携帯電話で写真を撮って、SNS(Webサイト及びネットサービス)に投稿するという行為、またコミュニケーションツールとしてLINE(無料通話アプリ)を駆使することはもはや文化となりつつあります。この便利武器による急速な傾向の現象は本学生に限らないことですが、依存すぎることで会話の弊害も生じていることが指摘されています。

さて、前述のスマートフォンのように夢中になって取り組んでいる活動を取りあげたのが、本号に1面に掲載する「よさこい・フェット」であり、ソーラン祭りのファイナルを目標に「とことんやってみよう」「のめり込んでしまいました」のコメントを寄せています。また2面では本後援会が表彰した2人は、中国語、ロシア語の習得に専念することで賞に輝き、語学を武器として社会で活かしたい熱意を持っています。卒業年次生も北海道職員、航空業界、金融業界への内定の背景には到達目標に向いそれぞれ入学時から隠れた努力があったことが窺い知ることができます。そして、「卒業生の声」では、MBA(経営学修士)を目指し、働きながら大学院に通い、その能力を企業で発揮したいと熱く語る卒業生を紹介しています。

間もなく、新年度の入学を迎え入れます。西岡キャンパスでスマートフォンの光景に変化を求めるのは困難と思いますが、新入生、在学生一人ひとりが熱き志をもって澆刺としたキャンパスライフを送ることを願ってやみません。